

**新型コロナ危機を契機とした社会変化を踏まえた新大阪駅周辺地域のまちづくりの検討の際に配慮すべき視点**

**○基本的な考え方**

- ・国の方向性を踏まえて、オンライン化の浸透への対応や、空間の過密に内在するリスクを避けながら、**フェイストゥフェイスコミュニケーション**を引き続き重要なキーワードとし、**高速交通ネットワークを活かし、三つの機能の向上により、クリエイティブな人材等を惹きつける環境整備**を図る。
- ・**デジタル空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）の高度な融合などDX技術を活用しながら、リアルな場ならではの価値の充実**を図る。
- ・**コロナ禍により東京一極集中など1カ所への集中への懸念が高まってきており、都市圏や国を超えた都市機能や人の分散化の動きを踏まえ、東京の首都機能のバックアップ機能を担うなど、広域交通結節点というポテンシャルを活かし、アジアや東京などから“えらばれるまち”をめざしていく。**

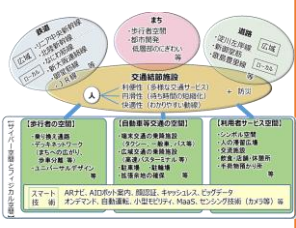
社会変化	影響	新大阪のまちづくりの検討の際に配慮すべき視点（例）	具体的な内容の例
在宅勤務 テレワーク	電車通勤の減少	<徒歩圏に住環境がある特性を活かす> 新大阪駅周辺地域での徒歩圏の駅職住近接・定着（新大阪・十三・淡路の3エリアの効果的な役割分担）	オフィスの多様化（クリエイティブオフィス、テレワーク拠点、コワーキング） まちとしての空間の魅力、淀川の空間活用 住機能の強化
	日常的に働く場としてのオフィス需要の減少	<新たなニーズをよび起す> クリエイティブな人材の集積、web会議のホスト会議室	
	出社の必要性の認識	<オフィスの必要性の再認識> 社員教育、アイデア出し、コミュニケーションの場の提供	
Web会議	出張の減少	<リアルでないとできないことを集める> 意見交換、新商品の体験、企画会議、契約	交流するための契約・体感などの目的の創出、機能の強化
Eコマース	実店舗での商品の購入が減少	<収益構造の革新の推進等> 五感へ訴求する体験の場、ここでしか手に入らない物の提供	体験型、参加型、オリジナルティ、ショーケース
空間	密な空間のリスク	<オープンスペースの重要性> ゆとりのある空間、安心感のある空間	広がり、高さに余裕のある空間

**交通結節機能**

**○新大阪駅周辺の交通結節施設の現状課題**

- ・歩行者と自動車の動線交錯、薄暗さ、駅からまちへ広がる歩行者動線のわかりにくさ
- ・自動車動線の交錯、バスが新御堂筋からのダイレクトアクセス不可
- ・バス停の分散、利用者サービス空間（人の滞留空間等）の不足 など

**交通結節施設の全体像**



**○新大阪駅周辺の考慮すべき交通流動変化**

- ・交通インフラ整備による駅における乗換などの交通量増加
- ・新大阪の拠点性向上に伴う発生集中交通量の増加



**○交通結節施設に関する主な検討内容**

- ・新大阪駅の主要動線となる駅内通路（3Fレベル）と駅前広場をつなぐ空間、まちの各方面への歩行者のネットワークの構築にかかる検討
- ・一般車、タクシー、バス（高速・観光・路線バス等）の通行・乗降機能、駐車などの適正規模・円滑性向上にかかる検討 など

新技術の導入への対応  
・自動運送技術  
・新型モビリティ  
・スマート技術 など



**○高速バスの拠点化（役割、将来需要動向を踏まえて規模を検討）**

- 高速道路ネットワークの近接性を活かした新大阪駅のバスターミナルの役割を整理
- ・役割：①新幹線乗車を目的とする関西国際空港や西日本各地から等乗換需要への対応  
②新大阪の拠点性向上等による目的地化に伴う広域からの交通アクセス需要への対応  
③大阪府域の広域的な集客施設などを目的とする交通アクセス需要への対応  
④機能集積のある難波や梅田との役割分担、バス拠点機能のリダンダンシー確保



- ・将来需要動向（2040年）：大きく下振れになる可能性は少ない  
増加要素：高規格幹線道路の進展（2千kmの整備）  
訪日外国人の増加（約6000万人の目標）など  
減少要素：人口減少（2040年に8%減少）



- ・新大阪で想定する規模：大阪発着の高速バスが発着する規模（1200台/日相当）  
梅田や難波を発着し、これまで新大阪に立ち寄りなかった高速バスが、新大阪に停車

**○今後の更なる検討**

- ・北陸新幹線、リニア中央新幹線の駅位置が示されれば、円滑な乗換動線や駅周辺の各駅前広場の役割分担や規模や配置、新御堂筋や周辺街路への交通影響等の検討を深度化するとともに、多くの高速バスを集められ、かつ駅前広場全体の健全な管理運営ができる事業スキーム等について検討を進める。
- ・十三、淡路エリアの交通結節施設については、新大阪へのアクセス改善やサブの交通結節機能の向上に向けた検討を進めるとともに、エリア全体として交通利便性向上を図るソフト施策の検討も進めていく。

**交流促進機能**

**○新大阪エリアのコア機能（キーコンテンツ）の導入の視点**

- ・広域高速交通ネットワークが持つ広い圏域の人々が交流し、世界の主要都市に勝る国際競争力強化のシンボル
- ・世界や日本全体と関西の交流による大阪の産業・ビジネス・文化の発展（広域からの流入・発信、マッチング）
- ・人や企業の集積・ネットワーク形成、エリア満足度の向上、関西のクリエイティブクラスの定着の促進

**（新大阪におけるキーコンテンツの導入の一例）**

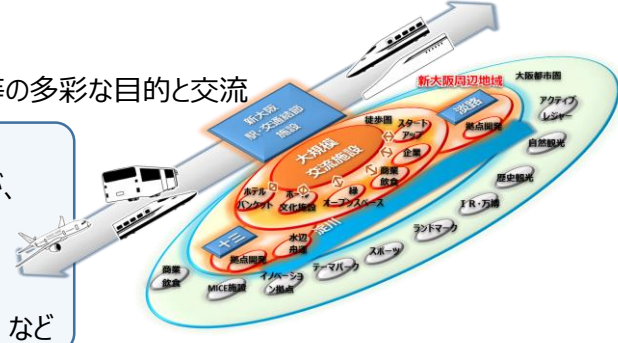
- ・交流促進効果が高く、将来における普遍性があり、空間活用の多様性のある展示会場の親和性が高い
- ・展示会場の機能を持ち合わせた、人が集まり様々なコトを催せる多目的で大規模な交流施設の立地が望ましい。

**【MICE会場（1ha規模）】**

- ・BtoB、BtoC、新作発表会、褒賞、イベント、コンサート等の多彩な目的と交流

**【今後の更なる検討】**

- 大規模な導入空間の確保に課題はあるが、リニア中央新幹線・北陸新幹線の動向を踏まえながら以下に留意し検討を進める
- ・事業スキーム・収益性の課題
  - ・交流の質を高めるデジタル技術の活用 など



**都市空間機能**

**○都市空間機能の導入の視点（新大阪駅の改札など新大阪に降り立つ空間から広がる演出）**

大阪の顔として、駅に降りたった人をまちに引き出すための強いインパクトのある空間や、人が定着したくなる居心地の良い空間を誘導

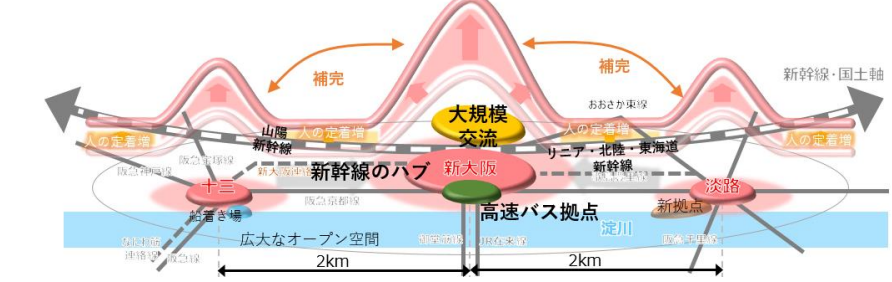
- ・新幹線からの風景、改札前や駅前広場の空間
- ・まちに広がる歩行者動線沿いの空間
- ・十三、淡路の独自性のある空間演出
- ・淀川の空間など自然空間の取り込み



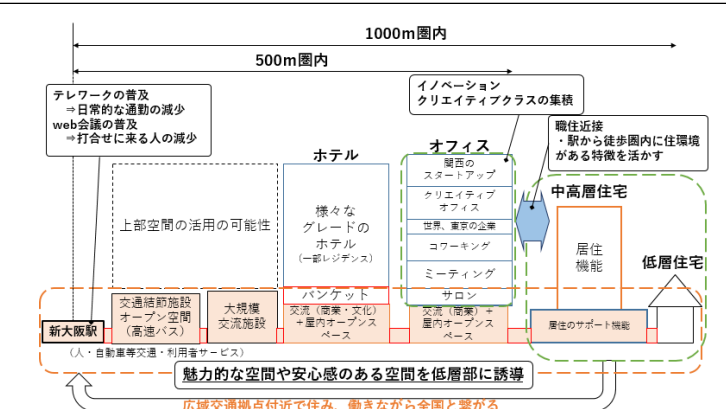
**新大阪駅周辺地域の都市機能の集積イメージ**

【新大阪エリア】新幹線のハブ、高速バス拠点及び大規模交流施設等を活かした都市機能集積

【十三・淡路エリア】サブ拠点として独自性を確保しつつ新大阪エリアの機能を補完



**【都市機能の充実に向けた民間都市開発の誘導イメージ】**



**【新大阪駅エリアにおける民間都市開発へ期待する主な内容】**

- 大街区化なども含めた一定のまとまりをもった都市開発による高機能なまちづくり
- 低層部における人のにぎわい、うるおい空間の充実と、独自性の創出
- 屋内の公共的空間、ピロティ空間などによる風雨、猛暑などに対応した人にやさしい空間づくり。

